令和８年度第２回

幸手市総合教育会議会議録

招　集　期　日	令和８年 10 月 20 日（火）午前 11 時 30 分
開　会　場　所	八代小学校　１階　会議室
開　会　の　日　時	令和８年 10 月 20 日（火）午前 11 時 30 分
閉　会　の　日　時	令和８年 10 月 20 日（火）午後 0 時 15 分

出席状況	職　名	氏　名	摘 要	職　名	氏　名	摘 要
	市　長	木 村　純 夫	出 席	教 育 委 員	古沢　万友実	出 席
	教　育　長	山　西　実	出 席	教 育 委 員	林　晴　実	出 席
	職務代理者	髙 島　勝 也	出 席	教 育 委 員	森　祥　一	出 席
	教 育 委 員	藤 沼　寛 次	出 席			

傍聴人：０人	書 記：朝見　佳晃・坂本　康太

議事参与者	職　名	氏　名	職　名	氏　名
	総合政策部長	安部　貴昭		
	教　育　部　長	仙田　茂雄		
	政　策　課　長	山本　悟		
	教育総務課長	大竹　孝典		
	学校教育課長	中沢　朋宏		
	社会教育課長	内藤　雅士		
	政 策 課 主 幹	小森谷　和則		

議　　事	顛　　末
開　　会 午前 11 時 30 分	教育部長 　開会を宣する。
あいさつ	市長 　あいさつする。
日程第１ **協議調整事項** **及び報告事項** **協議事項第１号** **今後の教育行政の推進について**	教育部長 　市長から教育行政の推進に関わる施策等について述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。 幸手市長 　現在、本市では「第３次幸手市教育大綱」のもと、「教育、学術及び文化の更なる振興」を目指し、皆様と共に様々な施策を推進している。 　教育委員会では、デジタル教育の更なる充実や、特別な支援を必要とする児童生徒に対応するための多様な支援、そして本年４月の第１回会議でも御報告いただいた「業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づく教職員の「働き方改革」に向けた取組など、現代的な教育課題に対し、迅速かつ的確に取り組んでいただいている。また、半年後の令和９年４月に迫った学校再編に向けた準備を着実に進めていただいていることについても、深く感謝を申し上げる。 　本市の最重要課題は、引き続き「人口減少・少子高齢化」への対応である。この大きな課題を乗り越え、持続可能なまちであり続けるために、教育の充実と子育て支援の強化は、市政運営における最重要施策の一つである。子どもたちが質の高い教育を受け、健やかに成長できる環境を整えること、そして保護者の皆様が安心して子育てをできる環境を整備すること、この両輪が「幸手市に住んで良かった」「これからも住み続けたい」と実感していただくための鍵であると確信している。 　冒頭のあいさつとも重なるが、去る 10 月１日に幸手市は市制施行 40 周年を迎え、10 月３日には記念式典を挙行した。式典では、市内４つの小学校の児童４名に「開会のことば」という大役を務めていただいた。大変印象深い出

	来事でしたので改めて触れさせていただくが、子どもたちの元気で頼もしい姿は、御臨席いただいた多くの皆様の心に深く響き、未来への希望を感じさせる大変素晴らしい式典となった。この40周年を、未来を担う子どもたちが本市への愛着を深める機会にしたいと考えていたが、まさにそれを象徴する場面であったと感じている。 市制施行40周年という節目は決してゴールではなく、次なる50周年、そしてその先の未来へとつなぐ大切な出発点である。先人から受け継いだ歴史や伝統、豊かな自然を大切にしながら、誰もが「幸せを手にするまち・幸手」を実感できるまちを創造するため、新たな一歩を力強く踏み出してまいりたいと考えている。 現在、来年４月の学校再編に向けた最終準備をはじめ、いじめ・不登校問題、部活動の地域展開、学校の働き方改革など、市と教育委員会が連携しながら一丸となって対応すべき重要課題が山積しており、まさに新たな学校づくりの転換点にきていると認識している。 まさしく「国家百年の計」は教育にある。本市の未来を担う子どもたちのために、何が最善であるか、本日の会議においても、委員の皆様の豊かな識見に基づき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げる。皆様との活発な議論が、本市の教育をさらに一歩前進させる力となることを期待して、私からの所感とさせていただく。 ≪**意見交換**≫ 藤沼委員 市だけではなく、日本全体として現在ＡＩによるサイバー攻撃が活発化している。新聞を見ても毎日ＡＩのことが記載されている。また、ＡＩを使用した個人情報の漏洩も少なくはない。スマートフォンで住民票を取ることができるため、これからの時代はＡＩを使いこなすことが必要になってくる。そのためにも公民館等で開催しているデジタル講座の参加者を増やし、事前に防げるようしていただきたい。また、社会環境や環境行政が目まぐるしく変化しているが、総合振興計画に基づいて施策が工程どおり実行されれば、子どもたちの教育の向上につながると思う。 教育部長 総合振興計画については、市の最上位計画となっており、その中から年度ごとに特に力を入れたい施策を教育

	行政重点施策として示している。また、重点施策のほかにも実施計画があり、こちらも合わせて年度ごとの進捗状況を確認している。 髙島職務代理者 自治体ではスマートシュリンクが流行っているが、単にスマート化するだけではうまくやっていけないと思う。他自治体では、古民家を改築し、ネット・ＩＴ環境を整えて集客を図ったり、どこでもＷｉ－Ｆｉが使えるようにして集客を増やしたりしている例がある。幸手市としても来年度開校する義務教育学校に新しい教育や地域の文化を継承するといった工夫をすればスマートシュリンクの流れに入ると考える。 古沢委員 不登校の児童生徒に対してオンライン授業を行っているが、児童生徒が視聴しているか、所在確認ができず対応に苦労していると学校の先生から話を伺った。また、不登校の子どもを持つ保護者との個別相談会に参加したときは、「見学や参加をさせてみたいが本人の気持ちが向いていない。」、「不登校が長期化すると、親子ともに精神的な余裕をなくしてしまう。」といった意見を伺った。幸手市では、スクールカウンセラーなど支援体制が充実していると感じている。今後も今ある支援を活かしながら、支援が届いていない子どもがいないか確認していただきたい。 学校教育課長 不登校対策は幸手市のみならず全国的な重要課題と考えている。市では、各校にスペシャルサポートルームを設置し、県で進めているメタバース事業にも積極的に参加している。その結果、学校に復帰できたといった報告を受けている。今後も、保護者だけで抱え込むのではなく、協力しながら子どもたちが少しずつ復帰できるような取組を行っていければと考えている。 林委員 子どもたちが「幸手で育ってよかった」「幸手で学んでよかった」と感じ、ふるさとに愛着を持てるまちを目指していければと考える。そのためにも、地域の歴史や産業などを活かした取組ができれば、さらに充実すると感じた。 教育長 今、学校が抱えている課題として、従来のように一斉に

	学ぶといった教育から大きく変化してきている。一人ひとりを大切にし、どの子も取り残さないという、子どもたちの多様性を包摂した中で実現可能性のある教育をしていくことが今後の教育行政の大きな役割ではないかと思う。また、不登校対策については、総合的な支援が必要となると認識し、今後は教育委員会だけではなく、関係機関と共有しながら、市全体で支えていくような取組を行っていきたい。 市長 先日、全国都市問題会議に出席した際に、印象に残った言葉が「小さくなっても、ただ小さくなるんじゃない。コンパクトの中で中身を充実させる。」である。これを受け、市の職員にも「人口減少は日本全体の話だが、その中でいかに市政を運営するか」ということに焦点を絞ってやっていこうと伝えてきている。髙島職務代理者から「スマートシュリンク」という言葉が出たが、まさに全国都市問題会議のテーマは、これからの近未来の日本のあり方の中で、人口減少問題の中で「賢く縮まる」というものであった。教育分野の中で「賢く縮まる」とはどういうことなのかについて、しっかり考えていきたいと思うが、専門家である皆様も学校教育の中でしっかり考えていっていただきたいと思う。また、ＰＤＣＡに関してであるが、一番大事なのは「現状と課題」を間違えたら正しい解決策が出ないということである。正確に現状と課題を把握して整理することが不可欠と考える。統廃合の問題、あるいは幸手市の子どもたちの教育をどうしていくかについては、日本でトップクラスになるような意気込みを持ってやっていかなければならない。「子どもは宝」と言うが、本当に宝だと思うならもっと緊張感を持ってやることがあると自分自身に言い聞かせている。皆様と共に力を尽くしていきたいと思う。
日程第２ **その他**	なし
閉　　会 午後０時15分	教育部長 閉会を宣す。

他特に重要と認める事項	な　し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和８年 11 月 17 日 教育委員　古沢　万友実 教育委員　林　晴実